

## (1) 基本的に

慢性期の治療は、養生の型で診察し、腹の古いツボを中心に左右どちらが悪いか決めます。臍の上下で左右が変わっている場合には、臍の上下で治療する左右を入れ替えても構いません。

悪いと決めた側から刺鍼していきます。患部に関係するツボが出やすい所に来たら、丁寧に観察しツボを見付け刺鍼します。その後、また、養生の型に戻り、刺鍼を続けます。そして、後始末として、頭に散鍼し手甲に引いて終わります。

慢性期では、初回は、先ず鍼中心で治療します。鍼のみでは変わりにくいツボを見付けいたら、灸や灸頭鍼をします。

2,3回養生の型を中心にした後で、腹診などで古いツボが特定できたら、灸や灸頭鍼を中心に治療したりもします。

## (2) 運動器系

運動器系の場合は、仰向けでは、基本的に腹診によってツボを選び刺鍼していきます。

うつ伏せや座位では、患部に関係する所を丁寧に観察し、ツボを見付け刺鍼します。また、動作制限などがあるときは、主に座位で適切な動作鍼をして改善します。

そして、悪い所が足首より先のときは、巨刺・上下刺・対角刺を組み合わせたりします。指などが悪いときは、糸状灸を組み合わせます。これらも、主に座位でします。

ただし、腰痛の場合など、患部の腹側にツボが出ていたり、その腹のツボに関係する手足の経絡にツボが出ていたりすることもあります。そういうときには、仰向けで、それらのツボに刺鍼することもあります。

患部ごとの出やすいツボや、出やすい動作鍼などは、先急の一本鍼を参考にしてください。

## (3) 内科系

### 1. 上衝が無い場合

上衝が無い慢性症状が中心のときには、基本的に養生の型で診察し、腹の古いツボの改善を目指して、治療していきます。

そのため、手足のツボは、腹の古いツボとの経絡的相関関係から探します。背中側のツボは、腹の古いツボとの横輪切り相関から探します。が、症状によっては、その症状に関係するツボが出ていることもあり、その辺りも考慮します。

### 2. 上衝を伴う場合

カゼの慢性期など、上衝も伴う場合には、上衝に付随する症状も考慮に入れて治療していきます。

先ず、養生の型に行く前に、手甲に引き鍼します。それから養生の型をします。腹の古いツボや症状との関係で、手足や背中など陽位のツボを選び、刺鍼していきます。

肩首が終わった後で、首の前側や胸の上部に熱い所があれば散鍼し、ツボが出ていれば刺鍼します。その後、頭を散鍼し、手甲に引き鍼して仕上げます。

### (4) 慢性期の型+灸・灸頭鍼

鍼のみでの慢性期治療をしてみて、鍼のみで変わりにくいような古いツボが見つかったら、灸や灸頭鍼との組み合わせで治療します。

古いツボの出ている所が腹などで痛がられるときには灸をしますが、それ以外は灸頭鍼の方が変化が早いことが多いです。

手の引き鍼の後、腹と大腿部の古いツボ2,3カ所に灸や灸頭鍼をした後、足の引き鍼や灸をします。灸頭鍼の場合は、灸頭鍼をしながら、足の引き鍼や灸をすることが多いです。

うつ伏せでも、背中、腰などに灸頭鍼をしながら、足に引き鍼したり灸したりしていきます。

灸や灸頭鍼をする面が上になるような工夫も必要です。患者さんが辛くない範囲で。そのため、横向き寝になってもらうこともあります。また、首まわりなども、うつ伏せか座位で、灸や灸頭鍼した方が良いこともあります。

座位では、肩首など表位で、熱い所に散鍼し、ツボが出ている所に刺鍼してから、頭に散鍼し、手甲に引き鍼して仕上げます。灸を沢山した場合などでは、手の骨空などに仕上げの灸をしておくのもよいです。